

# 2015年度第1四半期 決算説明会

2015年7月28日

株式会社アドバンテスト

## ご注意

- ◆当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆将来の見通しに関する記述について  
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

**ADVANTEST.**

# 2015年度第1四半期 決算報告

取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

# 業績概要

(億円)

	2014年度				2015年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	実績	1Q			
						前年同期比		前期比	
増減額	増減率	増減額	増減率						
受注高	492	382	387	502	440	-52	-10.6%	-63	-12.5%
売上高	368	421	410	434	403	+34	+9.4%	-32	-7.3%
売上総利益	203	229	234	238	226	+24	+11.7%	-13	-5.2%
営業利益	24	40	34	48	27	+3	+12.8%	-21	-43.7%
税引前純利益	32	48	53	56	28	-4	-12.2%	-28	-49.5%
当期純利益	13	33	46	37	19	+6	+42.1%	-18	-48.7%
受注残	444	404	381	450	487	+44	+9.8%	+37	+8.3%

**ADVANTEST.**

2015/7/28

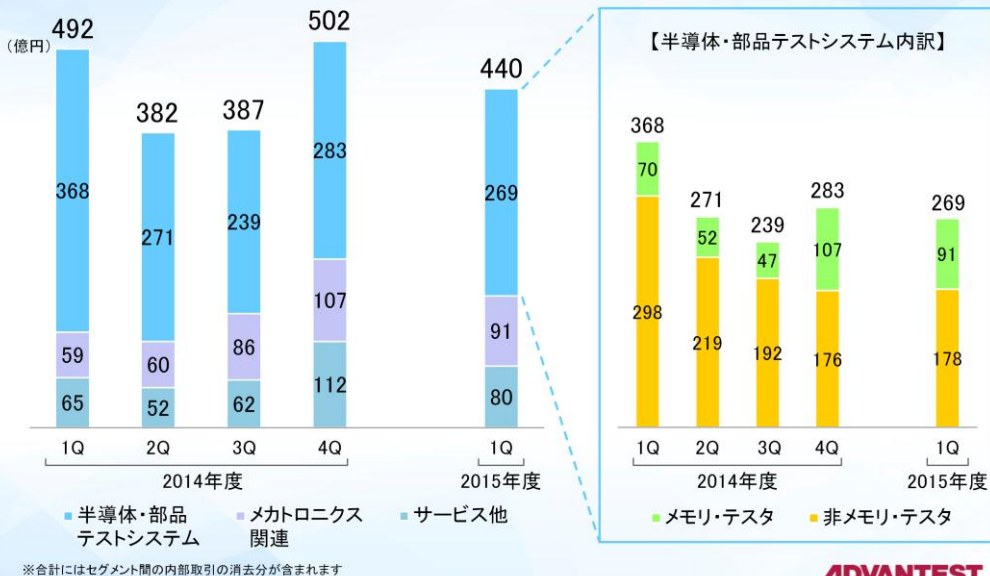
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

4

## ○ 2015年度第1四半期の業績概要

- 受注高 440億円 前年同期比 10.6%減
  - 売上高 403億円 前年同期比 9.4%増
  - 営業利益 27億円 前年同期比 12.8%増
  - 税引前純利益 28億円 前年同期比 12.2%減
  - 当期純利益 19億円 前年同期比 42.1%増
- 5四半期連続で黒字を達成
  - 受注高、売上高とも期初計画したとおりの実績を収める  
堅実なスタートとなった
  - 受注残 487億円 前年同期比 44億円増加

## 受注高 事業セグメント別



ADVANTEST.

2015/7/28

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

### ○ 2015年度第1四半期の事業セグメント別受注高

#### ○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前年同期比 26.9%減 269億円
  - うち非メモリ・テスト 178億円
  - メモリ・テスト 91億円

- 非メモリ・テストは、中国向けLTEスマートフォン関連の需要が急伸した前年同期の水準には至らなかったものの、スマートフォンの数量拡大や性能進化に支えられ需要が底堅く推移
- メモリ・テストは、顧客の旺盛なDRAM、NAND投資意欲を背景に前年同期実績を超過

#### ○ メカトロニクス関連事業

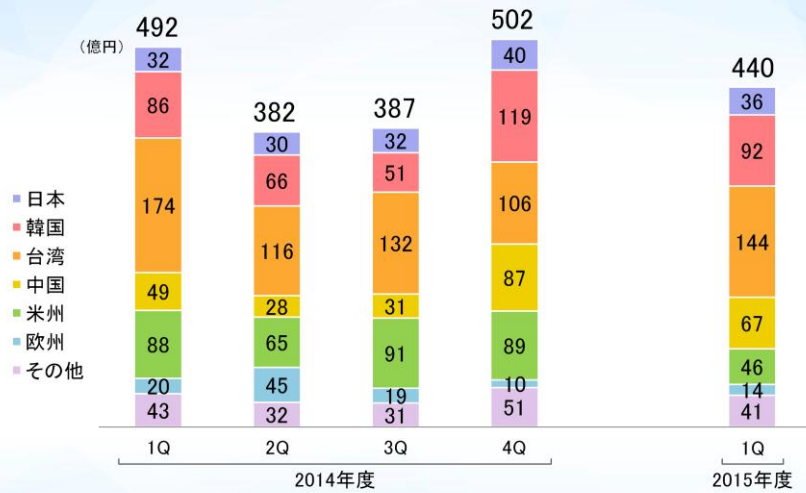
- 前年同期比 54.5%増 91億円

- メモリ・テスト投資が活発化する中で、デバイス・インタフェース需要も活況
- 半導体の微細化進展を背景に、ナノテクノロジー事業も堅調

#### ○ サービスその他事業

- 前年同期比 23.3%増 80億円
- 保守契約の拡大

## 受注高 地域(出荷先)別



**ADVANTEST.**

2015/7/28

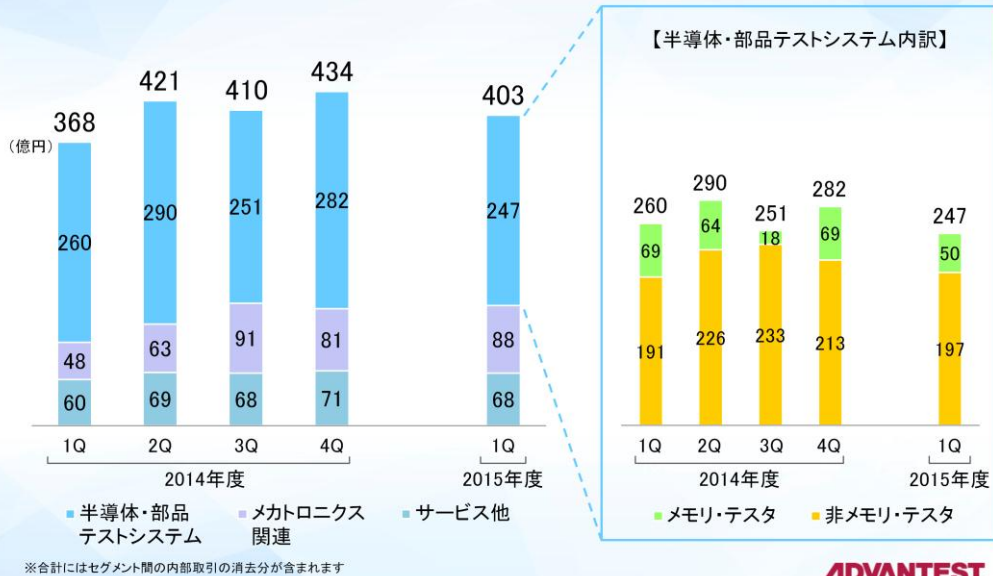
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

### ○ 2015年度第1四半期の地域別受注高

- 台湾  
ディスプレイドライバIC向けをはじめ、スマートフォン関連の非メモリ・テストの需要が堅調
- 韓国、中国  
メモリ・テスト需要が活発
- 米州  
ロジックIC向けが落ち込み

# 売上高 事業セグメント別



ADVANTEST.

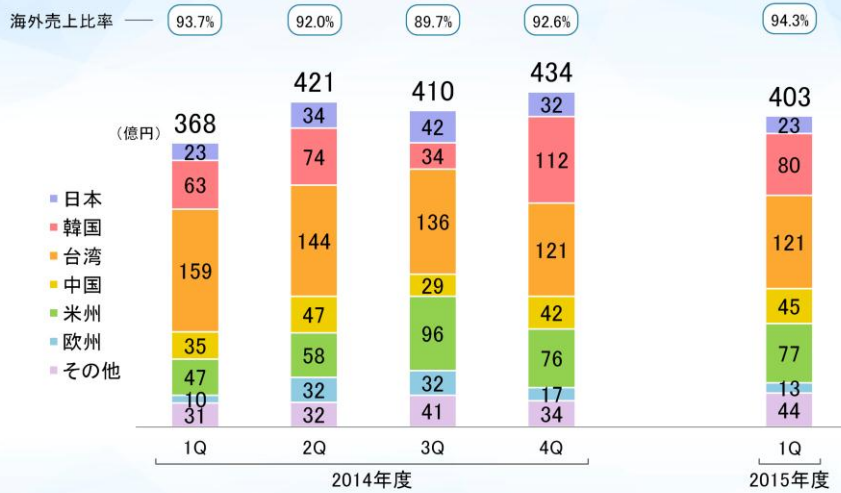
2015/7/28

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

7

- 2015年度第1四半期の事業セグメント別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
  - ・ 前年同期比 5.2%減 247億円
    - うち非メモリ・テスタ 197億円
    - メモリ・テスタ 50億円
  - ・ 非メモリ・テスタは受注同様、スマートフォン関連を中心に底堅く売上げた
  - ・ メモリ・テスタは、前年同期実績を下回ったが、顧客需要時期の関係によるもので、売上計上が順次進む見込み
- メカトロニクス関連事業
  - ・ 前年同期比 83.8%増 88億円
  - ・ 受注同様、デバイス・インターフェースとナノテクノロジーが伸びを牽引
- サービスその他事業
  - ・ 前年同期比 13.4%増 68億円
  - ・ 保守契約の拡大を反映

## 売上高 地域(出荷先)別



**ADVANTEST.**

2015/7/28

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

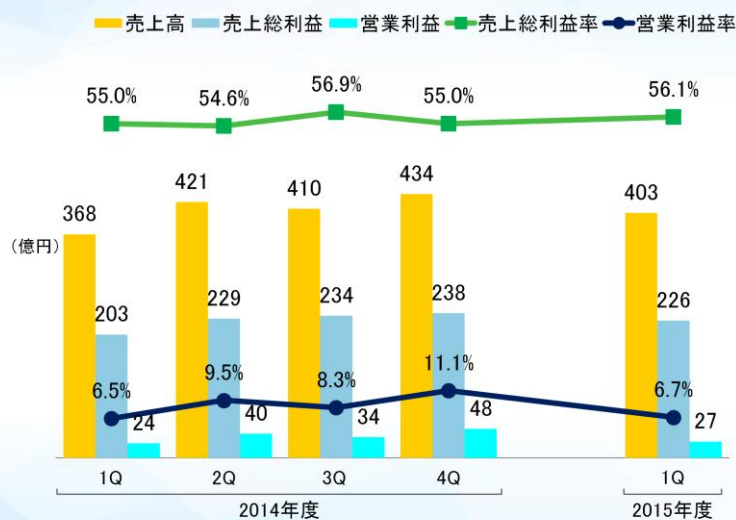
8

### ○ 2015年度第1四半期の地域別売上高

- 台湾  
スマートフォン関連の非メモリ・テスト販売が堅調
- 米州  
ロジックIC向けが堅調
- これらの結果、海外売上比率 94.3%



# 売上高/売上総利益/営業利益



**ADVANTEST.**

2015/7/28

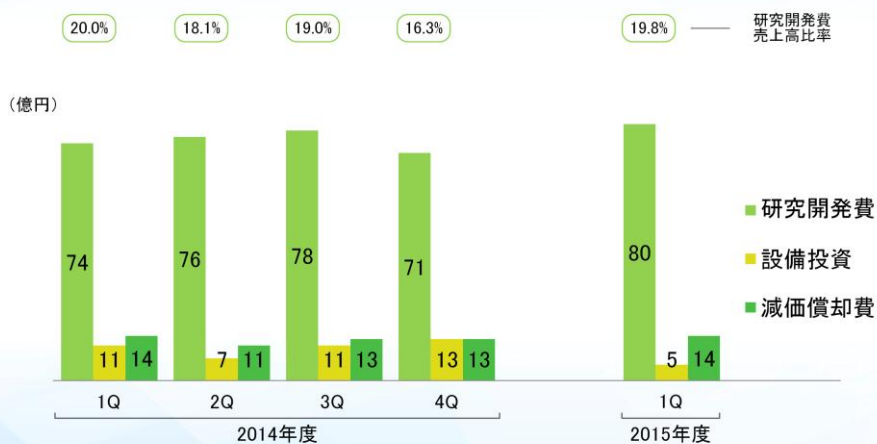
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

## ○ 2015年度第1四半期の営業損益

- 売上総利益 226億円 前年同期比 24億円増  
 売上高が前年同期比 34億円増収したことに加え、  
 メカトロニクス事業の採算が良好で  
 売上総利益率が1.1ポイント改善
- 営業利益 27億円 前年同期比 3億円増  
 円安進行に伴い海外オペレーション費用の円貨転換額が上昇した  
 ことと、研究開発費増などで、小幅な伸び
- 営業利益率 6.7%

# 研究開発費/設備投資/減価償却費



**ADVANTEST.**

2015/7/28

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

10

## ○ 2015年度第1四半期の研究開発費等

- 研究開発費 80億円 前年同期比 6億円増  
ナノテクノロジー関連で増加
- 設備投資 5億円
- 減価償却費 14億円

# バランス・シート



2015/7/28

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

11

## ○ 2015年6月末時点のバランス・シート

### ○ 資産の部

- 現金預金  
前年度末比 54億円減 922億円  
社債償還 100億円
- 棚卸資産  
前年度末比 47億円増 419億円  
受注残の増加に対応するもの
- 総資産  
前年度末比 27億円減 2,703億円

### ○ 負債・資本の部

- 満期を迎えた社債 100億円を 5月に償還
- 株主資本 1,451億円
- 株主資本比率 前年度末比 2.1ポイント増 53.7%

# 2015年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 黒江 真一郎

# 2015年度業績予想

(億円) ※2015年度業績予想 為替前提: 1米ドル=120円、1ユーロ=135円 (参考:4月時点の予想内容)

	14年度 実績	15年度 1Q実績	15年度 2Q予想	15年度 上期予想	15年度 下期予想	15年度 通期予想	通期予想 前年度比	15年度 上期予想	15年度 下期予想
受注高	1,763	440	380	820	850	1,670	-5.3%	860	810
受注残	450	487	420	420	470	470	+4.4%	490	470
売上高	1,633	403	447	850	800	1,650	+1.0%	820	830
営業利益	146	27	53	80	70	150	+2.6%	72	78
営業利益率	9.0%	6.7%	11.8%	9.4%	8.8%	9.1%	+0.1pts	8.8%	9.4%
税引前当期純利益	189	28	52	80	70	150	-20.5%	72	78
当期純利益	129	19	43	62	58	120	-7.3%	58	62
当期純利益率	7.9%	4.7%	9.6%	7.3%	7.3%	7.3%	-0.6pts	7.1%	7.5%
EPS(円)	74.31					68.75			
ROE(%)	10.1					8.3			

**ADVANTEST.**

2015/7/28

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

## ○ 2015年度の業績予想について

- 2015年度の滑り出しは想定どおりの内容、4月に公表した通期業績予想の変更はない
- 市場環境の変化、受注残の状況などを踏まえ、半期予想を若干変更
- 上期予想は、
  - 受注高 860億円から 820億円 40億円減
  - 売上高 820億円から 850億円 30億円増
  - 営業利益 72億円から 80億円 8億円増
  - 当期純利益 58億円から 62億円 4億円増

と、4月の予想内容から売上高と利益の見通しを引き上げ、受注の見通しを引き下げる

- 2Qの受注見通しを引き下げたことで、下期の売上予想を下方修正
- 以上を総合した通期見通しは、4月の発表内容のとおり、
  - 受注高 1,670億円
  - 売上高 1,650億円
  - 営業利益 150億円
  - 当期純利益 120億円

# 今後の各事業のポイント

## ■ 半導体・部品テストシステム

### 非メモリ・テスト

- 足元はスマートフォンの販売見通しや半導体の生産見通しから、テスト新規発注にスロー傾向
- 下期から16年度にかけ、先端プロセスを採用したロジックICの数量増加がテスト需要を加速する見込み
- 当社は中国/台湾ファブレスとの関係をここ数年で強化、APやBBのサプライチェーンのパワーバランスが変わっても安定した需要が見込めるポジションにある
- 今後のデバイス複合化進展を見据え、MCU、車載IC、IoT関連企業との関係をさらに強化



テスト・システム「V93000」

**ADVANTEST.**

## ○ 各事業の今後のポイント

- 非メモリ・テスト市場は足元、スマートフォンの販売見通しや半導体の生産見通しからテスト新規発注も減速傾向
- ただしそれは長期化はせず、下期から16年度にかけて、先端プロセスを採用したロジックICの数量増加がテスト需要を加速する見込み
- 当社は欧米だけでなく、中国/台湾のファブレス企業との関係をここ数年で強化してきた
- たとえばスマートフォン用のアプリケーション・プロセッサやベースバンド・プロセッサのサプライチェーンのパワーバランスが変わっても安定した需要が見込めるポジションにある
- またMCU、車載IC、IoT関連企業との関係をさらに強化し、今後のデバイス複合化の進行に伴うテスト需要の取り込みを確かなものとする

# 今後の各事業のポイント

## ■ 半導体・部品テストシステム

### メモリ・テスタ

- スマートフォン/データセンター用メモリの高速化・容量拡大トレンドを受け、DRAM/NANDとも生産能力増強投資とデバイス高速化対応投資が各顧客で進展
- DDR4/LPDDR4向けでは、「T5503HS」の順調な拡大を見込む
- NANDテスタのシェア強化
- 新製品「T5833」を投入、DRAM/NAND市場での競争力向上



メモリ・テスト・システム「T5833」

**ADVANTEST.**

## ○ テスタ事業の今後のポイント

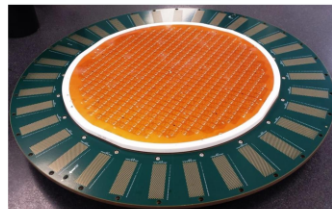
- スマートフォン/データセンター用メモリの高速化・容量拡大トレンドを受け、DRAM/NANDとも投資が進展中
- DRAMでは、DDR4/LPDDR4のスピードソート向けで「T5503HS」需要が2Q以降も期待できる
- NANDでは、デバイスの高速化や容量拡大がメモリ・テスタの投資に繋がる。この1Qに投入した新製品「T5833」は、生産能力増強対応とデバイス高速化対応の双方に応える、DRAM/NAND兼用の次期主力機種。この製品を核として、さらにシェアを伸ばしたい



# 今後の各事業のポイント

## ■ メカトロニクス関連

- テストハンドラ: ロジックIC向け、メモリ向け新機種の市場浸透を図る
- デバイス・インタフェース: 新プローブ・カードの顧客評価が進捗、2Qにデリバリ開始予定
- ナノテクノロジー: 当社EB技術への期待上昇中、需要を着実に取り込む



新プローブ・カード

## ■ サービス他

- ポストセールス商材拡充で、サービス収益基盤強化
- SSDテストのリピート需要/新規顧客獲得活動を推進
- 医薬/自動車/半導体など、産業向けテラヘルツ計測ビジネスの確立に向けた研究開発とマーケティングを展開

**ADVANTEST.**

## ○ メカトロニクス関連、サービス他の展望

- テスト・ハンドラは、ロジック向け、メモリ向けともに、デバイス発熱対応や高低温試験対応のための温度コントロール技術、微細なピッチのパッケージに対応する技術を搭載した新機種を販売中。これら新製品の市場への浸透を図る
- デバイス・インタフェースは、メモリ・テスト需要と連動した良好な事業環境の持続を見込む。またプローブ・カードはNAND向けの新製品で顧客評価が進捗、2Q中にデリバリ開始予定
- ナノテクノロジーは、微細加工・計測ニーズに対するEB技術への期待が高まっており、それらの収益化を徹底。前期並みの業績を確保できる見通し
- サービス他部門の中核のフィールド・サービスはここ数年、保守契約の拡大を基点に収益を持続的に伸ばすことができている。ポストセールス商材拡充で、さらに収益基盤強化を図る
- SSDテストについては、リピート需要/新規顧客獲得活動など市場深耕を徹底、今期以降の市場拡大に備える
- 以上